1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2692000033		
法人名	株式会社きずなケアサービス		
事業所名	グループホームよさの （てんぐユニット）		
所在地	京都府与謝郡与謝野町字三河内883番地2		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692000033&SCD=320&PCD=26

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人　京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町８３－１　ひと・まち交流館京都　1F
訪問調査日	平成23年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームよさのてんぐユニットでは、静かな環境の中ご利用者様が和気あいあいと過ごされています。色々な趣味を持たれたご利用者様の技術・技で様々な作品作りが盛んです。今までのされておられたお仕事が出来る限り経験をお持ちの近いお仕事が出来るような支援が出来るように努力しています。ペットボトルを使用してのボーリング大会、風船バレーなど盛んです

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

与謝野町のちりめん街道に3階建てビルの織物会社を改造したグループホームで、裏には、和風の大邸宅と庭園がある。理念に「人権の尊重」と「人と人とのつながり」を掲げて開設3年目。祭りに由来し「かぐら」と「てんぐ」の2ユニットを2階と3階に設けている。地域性を活かし、積極的に行事や外出をすすめ、生活の充実、健康増進、体力向上をめざしている。特に、”生活行為に勝るリハビリなし”を実践するため、毎月、行事や外出計画を多く立て、レクリエーションとリハビリにもメリハリをつけて取り組んでいる。また、本年9月より、丹後地域リハビリ支援センターと連携し、専門技師派遣により、訓練効果を高める取り組みが期待できる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である『人の人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にする』を定めて、日々実践における大切な考えとして実践できている	理念をホーム内に掲示し、朝礼時には、職員が理念に基づく1分間スピーチを実践。管理者は利用者本位、モラル、言葉かけ、リハビリなどを重視した話しをし、理念の共有と施設サービスの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な地域との関われる行事や、隣組を中心とした様々な交流ができている。地域の方から野菜を頂いたり、地域のサークル活動に利用者さんが参加されている	町内会に加入し、地蔵盆、運動会、文化祭や案山子コンテストなどに参加。また、ホームの裏庭を活用した「お茶会」やきずな祭り、もちつき大会には、近隣の方々を招き、理解と交流の機会をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトをスタッフが数名されている。与謝野町内での各施設との連携によるサポーター養成講座への参加、小学生を対象としたサポーター養成講座の参加など取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事を呼び掛けて頂く良い機会であり、情報交換や施設の課題など検討できる機会が持てる会議である。会議の日にちに行事参加して頂いたり、地域により深く関われるように今後もしたい	会議は隔月に開催し、地域行事やホームでの生活状況などの報告と相互の意見交換をしてる。外出活動の行き先について、地域からアドバイスもある。開催は、場合により少人数のときもある。	会議へ参加が大切であり、事前に参加者の把握と確認を行い、日程調整を図るなど、多数の出席を得たい。ときには、学校、消防、警察、老人会などのゲストメンバーも加えたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの入居時における相談、連携など連携できている。また社会資源の一つとしてホームが活用できるように取り組みたい	野田川庁舎に隣接し、町の事業所連絡会やグループホーム連絡会で情報交換と連携を密接にしている。7人のキャラバンメイトがおり、地域包括支援センターと連携し、小学校のサポーター養成講座も支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料、マニュアルの職員への配布など行っている。身体拘束しないケアを実践している	理念に基づき「身体拘束をしない」と契約書に明記し、全職員には、マニュアル配布と研修会を実施して意識を高めている。日中は、すべての出入り口、エレベータの施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修や資料、マニュアルの職員への配布など行っている。身体拘束しないケアを実践している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を企画し、参加する機会を作っている。必要に応じて関係者と話し合ったり対象者で必要な方があるか検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約における説明をして頂いている。不安点・疑問点などあれば、相談させて頂き安心してご入居させて頂けるようにしている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族様から意見や要望を常々教えて頂く機会を設け、会議で議題にあげるなど運営に反映させている	家族との絆を絶やさないため面会をお願いし、情報交換を図るほか、利用者の担当職員が、毎月、手紙形式で現況を書き、献立表も添えて家族に送り、意見の反映に努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場において、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している	毎月、全員による職員会議を開催し、意見を述べ合う機会を設けている。また、各担当係の役割をとおして管理者と職員がお互いに意見や提案を出し合い運営に活かせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力・意欲・実績・勤務状況・役割・資格など把握して、向上心を持って働いて頂けるよう工夫し、職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や日々の指導や助言など行い、スタッフ育成に努めている。法人外の研修を希望を聞いたり、勧めたりしながら日々研鑽できるように実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	与謝野町グループホーム連絡会を中心に交流の機会作りに努めている。近隣のホームなどでの見学、実習など現在進めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の際、契約時など、サービスを導入する段階で、本人の不安点や問題点を把握し、まとめて解決できるように取り組み信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の際、契約時など、サービスを導入する段階で、家族の不安点や問題点を把握し、まとめて解決できるように取り組み信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時必要としている支援を見極めて、他のサービスを含んだ対応方法など検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り合い、面接時、訪問時、行事の際など相談しながら、本人との関係構築を築いている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小外出・個別外出など参加して頂いたり出来る限り関係が途切れないように支援している。また訪問して頂けるように、関係のある方に声掛け支援している	毎年5月～7月にかけて一人ひとりの情報収集による個別外出計画書を作成し、個別外出や少人数による外出をとおして馴染みの関係づくりに努めている。理容も来訪で実施している。	関係が途切れない支援として個別外出計画を立てているが、実践出来ない場合もある。家族参加の支援協力も含めて検討されたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、孤立しないよう、ますます関係作りができるように、行事・外出など通じて関わりあい、支えあいができるよう支援に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて支援している		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に聞き取りを行い、希望、意向、自分らしさがだせるように日課作りをお聞きしたり、家族様に相談したりしながら支援している	入所時や面会時などの情報収集、及びケース会議の意見などから、本人の意向や思いの把握に努めてはいるが、判断に資する記録が乏しい。	積極的できめ細かな情報や反応、言葉からの気づきなど、本人に寄り添った豊富な記録を望む。日課表の中に聞き出した本人の希望や意向なども記しておきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の把握と、なじみの暮らし方、生活環境の把握に努め、反映できるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議の場で、ケア課題の把握、解決に向けて現状に合わせた介護計画を作成している。	介護計画はケアマネジャ―と利用者の担当係で作成し、全員参加によるケース会議で検討している。また、経過記録の頁では、介護計画と日々の介護記録を見やすくするための工夫がある。半年に1回見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、介護計画に合わせた実践、結果、気づきを記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画を見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、地域性に合わせたニーズに対応し、画一的にならないよう会議の場などで検討を行い事業所で行うサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源の把握に努め、本人が心身の力を発揮し、安心して生活できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の医療ニーズに合わせ、出来る限り希望に即した医療が受けられるよう医療関係者と連携を取り、受診・往診の支援をしている	これまでのかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の希望により同行支援やホームへの訪問診療もあり、医師との情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に相談しながら、ご利用者が適切な受診や看護が適切かつスムーズに行えるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入退院時に医療関係者との連携に努めている。より良い関係がもてるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になられた場合や終末期の在り方など、家族様を中心に相談と希望を聞かせて頂いている。希望に合わせながら、地域の関係者などチームで取り組めるよう支援に努めている	「終末期のあり方」について家族に説明している。また、利用開始時に、看取りに関する指針を示しているが、現在までに取り組んだ事例は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は緊急時対応マニュアルに沿って対応出来ている。消防署から救急救命講習に来て頂いたりする中で実践力が付くように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に管理者を中心に、昼夜を問わず利用者が避難出来るように、訓練している。地域との協力体制を築き、支えあえるように努めている	年2回、消防署指導による訓練及び独自に避難誘導、防災訓練等を毎月実施。防災設備、AED、食糧、衛生材料の備蓄あり。全職員、救命救急講習受講済。事業所連絡会でも地域防災について検討中である。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを守るため、居室へのノック励行、トイレや入浴時の配慮、「言葉かけ」などについて、内部研修会を実施。居室やトイレは、中からも施錠できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリェーションメニューの希望をお聞きしたり、外出の希望などお聞きしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に、希望に沿えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中で、身だしなみや、おしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	役割つくりの創設ができるように、本人の力量を把握し、準備・食事・片づけ・台拭きなどスタッフと一緒に行っている	「食事は共同で」を契約書で明記し、準備や買い物も利用者と共に行動している。従って食事準備や片づけ、テーブルふきなど、個々の食事に係わる事柄を日課表に上げて、食事を楽しむ工夫をしている。	行事食をテーブルバイキングにしたり支援しているが、食卓テーブルの食事マットや、季節の卓花、献立による食器の選択など、さらに工夫して雰囲気を高めたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランス、水分量を一日を通じて確保できるよう、本人に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、本人に合わせた口腔ケアをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、排泄パターンの把握を行い、本人の習慣を活かし、自立に向けた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンからトイレ誘導と自立支援に努めている。その結果、「おむつ」から「リハパンツ」に改善された実績もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	理解し、飲食物の工夫、運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのご希望やタイミングに応じた入浴をご希望を聞きながら、安心して、楽しんで入浴して頂けるように支援している	時間をかけてゆったりと、個々にあった入浴を心がけている。昼間の入浴はいつでも可能であるが、今後は、夜間入浴（19時～20時）をめざした対応もできるように検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息して頂けるように、生活習慣やその時々の状況に応じて、休憩できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安心して服薬して頂けるように、ご利用者の状態と変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課が充実して、張り合いや喜びが出来る生活歴や力を活かした役割作り、趣味、楽しみごと等気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物の同行、希望を聞きながら、外出支援している。家族様との外出ができるよう支援している	日常的な裏庭の散歩や近隣散策、買い物への外出、地域行事への参加、別途に個別外出計画のドライブなど、本人・家族の希望を取り入れて、可能な限り満足度を高める外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により、お金を所持して頂いたり、預かったお金を使用できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやりとりの支援を日常的にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り利用者の力を引き出しながら安全かつ出来るだけ自立した生活ができるように支援している	道路側の食堂は、大窓から自然光が入り特別明るい。畳コーナーとホームコタツの食卓あり。騒音も無い。両側に居室等が並ぶ中央は約5m×15mの幅広く長い通路がある。暖房器具、加湿器で管理。飾りもの・掲示物がなく季節や生活感を感じない。	ホームは安らぐ生活の場であり、居心地の良い共用空間を整えたい。馴染みの調度品や作品などの展示、自由な談話コーナー、ソファーの設置、入口や階段の通路等々、環境づくりの検討を望む。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所ができるように、共同空間においても工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅の環境に近づけるように家族様と検討している	全室洋室であるが、畳や敷物の要望に対応。持ち込みは自由で馴染みのタンス、置物、写真などで飾り、居室の環境づくりに努めている。	居室表示の名札は、利用者等の作成による貼り紙となっているが、理念に添って、きちんとした表札が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人のできること、わかることを活かし、自立支援できるように取り組んでいる		